

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)本田技研工業㈱ 寄居工場WWF棟 建設工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県大里郡寄居町大字富田字鷺丸 2354番地 外16筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	70 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年02月02日
敷地面積	780,551 m ²	作成者	
建築面積	2,564 m ²	確認日	2023年03月09日
延床面積	4,770 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B+:★★ C:★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし
Q1 室内環境 2.5% ≤ [昼光率] 窓システムSC : 0.41、U=3.70(W/m2K)、外壁その他 : U=0.51(W/m2K) 建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。	Q2 サービス性能 事務室の天井高2.9m以上 耐震クラスA 階高:4.5m。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー BPI _m =0.56。 [BEI][BEIm]=0.75。	LR2 資源・マテリアル 節水マなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSを使用している。 ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)本田技術工業株式会社 寄居工場WWF棟 建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境			0.40		-				3.2
1 音環境		3.0	0.15		-				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-				
1.2 遮音		3.0	0.40		-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音		3.0	0.20		-				
2 温熱環境		2.7	0.35		-				2.7
2.1 室温制御		3.6	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能	窓システムSC:0.41、U=3.70(W/m2K)、外壁その他:U=0.51(W/m2K)	4.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システムとしている。	4.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20		-				
2.3 空調方式		1.0	0.30		-				
3 光・視環境		3.5	0.25		-				3.5
3.1 昼光利用		4.2	0.30		-				
1 昼光率	2.5% ≤ [昼光率]	5.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
1 昼光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度	照度が500lx以上1000lx未満。	4.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		4.0	0.25		-				4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00		-				
4.2 換気		4.0	0.30		-				
1 換気量	建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。	5.0	0.33		-				
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	4.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		4.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御	建物内に喫煙室及び喫煙スペースなし。	5.0	0.50		-				
Q2 サービス性能		-	0.30		-				3.3
1 機能性		3.4	0.40		-				3.4
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40		-				
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30		-				
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.9m以上	5.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置	5.0	0.33		-				
3 内装計画		3.0	0.33		-				
1.3 維持管理		4.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	風除室の1次扉と2次扉が同時に開かないように距離を確保し、または土砂などの進入を防ぐ為の設計をしている。	5.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30		-				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水SGP(D)、給湯SUS(C)、排水VP(B)。	4.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.0	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		-				

	5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
--	---	---------	--	-----	------	--	---	--

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.5m。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≤[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新できる。	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.56。	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.75	3.5	0.50	-	3.5
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			断熱材、床タイル、ビニル床シート	5.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			LGSを使用している。	4.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つ以上~3つ以下ある。	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート



■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)本田技研工業(株) 寄居工場	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.7	+	2.6	=	6.3	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.7
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
ライフサイクルCO2排出率82%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
特になし			

:入力欄